

## アイヌ政策推進交付金事業計画

1 事業名	様似町アイヌ政策推進事業
2 事業の種類	文化振興事業、地域・産業振興事業、コミュニティ活動支援事業
3 事業の目的	アイヌ協会や民族文化保存会で所有している貴重なアイヌの伝統や文化に関する資料を次世代に確実に引き継ぐとともに、アイヌ伝統文化について町内をはじめ広く世界にPRすることによりアイヌのかたへの理解促進を図り、アイヌ民族の誇りが尊重されるまちの実現を目指す。
4 事業の概要	<p>(1) 文化振興事業</p> <p>① 熊崎直平氏資料の整理及び資料目録作成事業</p> <p>○事業実施主体 様似町</p> <p>○事業の実施場所 東様似生活館、様似町中央公民館、札幌市</p> <p>○委託先 印刷関連会社</p> <p>○事業実施期間 交付決定～令和7年3月</p> <p>○事業の内容と考え方</p> <p>北海道立岡田尋常小学校は、「旧土人保護法」に基づいて設立された、アイヌ民族の児童を対象にした学校であった。熊崎直平氏(故人)はその学校に長年勤務し、学校の廃止後も、アイヌ民族と身近に接して当地に住み続けた人であった。</p> <p>熊崎氏の資料の大部分は、熊崎氏がアイヌ民族・アイヌ文化について自分の研究をまとめて書籍として発刊するつもりで書いた原稿の草稿であるが、その中には、熊崎氏がアイヌと身近に接しながら得たさまざまな知見が含まれており、貴重な情報が多数含まれている。また、当地で採集されたアイヌ語の語彙、口承文芸の記録も含まれている。</p> <p>そのようなことから、学校に関する資料及び当時のアイヌの生活に関する資料をデジタル撮影、整理、翻刻、調査研究を行い、資料目録を作成するものであり、令和6年度においては引き続き調査研究を進め、資料目録を発刊する。</p> <p>(2) 地域・産業振興事業</p> <p>① アイヌ関連資料の調査研究及び普及活用事業(街歩きデジタルガイド制作)</p> <p>○事業実施主体 様似町</p> <p>○事業の実施場所 様似郷土館</p> <p>○委託先 印刷関連会社</p> <p>○事業実施期間 交付決定の日～令和7年3月</p> <p>○事業の内容と考え方</p> <p>様似郷土館所蔵「矢本家文書」及び他館所蔵「東蝦夷地シャマニ之景」は古くから和人文化とアイヌ文化が接触し独自の歴史文化を築いた様似の歴史を表す重要な資料である。このことから、資料の調査及びレプリカ作成等を行って活用を図るとともに、アイヌ民族の衣装や体験活動実施に必要な環境を整え、様似郷土館のアイヌ関連展示の拡充及び企画展を実施することにより、アイヌ文化の普及活用及び観光プロモーションの推進を図る。</p> <p>令和6年度は、これらを活用した街歩きデジタルガイドを製作することにより、様似郷土館のみならず対象エリアを町全域としたアイヌ文化の普及活用及び観光プロモーションを運用し、「様似×アイヌ文化×観光」を一つとした総合的な観光プロモーションを行う。</p> <p>(3) コミュニティ活動支援事業</p> <p>① 台湾原住民族との交流・研修事業</p> <p>○事業実施主体 様似町</p>

	<p>○事業の実施場所 様似町、白老町、札幌市  ○委託先 旅行代理店  ○事業実施期間 交付決定～令和7年3月  ○事業の内容と考え方  以前より交流があった台湾原住民族の諸民族の一つ、ブヌ族の歌舞団を招へいし、お互いに歌や踊りを披露するなど交流を深めるとともに、町内のアイヌ民族と関わりのある景観や施設、史跡を見学してもらい、さらにウポポイなど、北海道内のアイヌ民族施設をともに訪問し、見学してもらいながら意見交換を行うことにより、アイヌ文化の継承・発展に活かす。</p>
<p>5 アイヌ施策推進地域計画における記載</p>	<p>4-1 アイヌ文化の保存又は継承に資する事業  ■ 熊崎直平氏資料の整理及び資料目録作成事業  北海道立岡田尋常小学校は、「旧土人保護法」に基づいて設立された、アイヌ民族の児童を対象にした学校であった。熊崎直平氏(故人)はその学校に長年勤務し、学校の廃止後も、アイヌ民族と身近に接して当地に住み続けた人であった。  熊崎氏の資料の大部分は、熊崎氏がアイヌ民族・アイヌ文化について自分の研究をまとめて書籍として発刊するつもりで書いた原稿の草稿であるが、その中には、熊崎氏がアイヌと身近に接しながら得たさまざまな知見が含まれており、貴重な情報が多数含まれている。また、当地で採集されたアイヌ語の語彙、口承文芸の記録も含まれている。  そのようなことから、学校に関する資料及び当時のアイヌの生活に関する資料をデジタル撮影、整理、翻刻、調査研究を行い、資料目録を作成するものである。</p> <p>4-3 観光の振興その他の産業の振興に資する事業  ■ アイヌ関連資料の調査研究及び普及活用事業  様似町は古くから和人文化とアイヌ文化が接触し独自の歴史文化を築いており、国指定重要文化財「蝦夷三官寺等澗院関係資料」や明治時代に書かれた様似郷土館所蔵「矢本家文書」など様似のアイヌと和人の生活を表す貴重な資料も多く残っている。  また、他館所蔵の絵図「東蝦夷地シャマニ之景」では、等澗院や会所といった和人の施設とともに、アイヌと思われる人々が漁や鹿狩りを行っている情景が描かれ、和人文化とアイヌ文化の接触という様似独自の歴史文化を示す当町にとって重要な歴史資料の一つである。  しかし、これまで様似町におけるアイヌと和人の関係史についてあまり研究が進んでおらず、他では見られない独自の関係性でありながらこれらの歴史についての普及活用は進んでいない。  このことから、これらの資料の調査から得た新たな知見の活用を図るとともに、アイヌ民族の衣装や体験活動実施に必要な環境を整え、絵図「東蝦夷地シャマニ之景」のレプリカ複製及びモバイルガイドの新規作成など様似郷土館のアイヌ関連展示を拡充することにより、さらなるアイヌ文化の普及活用及び観光プロモーションの推進を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 資料調査及び各展示資料の製作 <ul style="list-style-type: none"> <li>・様似郷土館所蔵「矢本家文書」内アイヌ関係資料の調査研究</li> <li>・体験活動資料の製作及び運用</li> </ul> </li> <li>(2) 様似郷土館アイヌ展示拡充 <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記製作物を用いて郷土館内アイヌ文化関連展示の拡充</li> </ul> </li> <li>(3) 企画展の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記製作物を活用した企画展、報告会、ワークショップの開催</li> </ul> </li> <li>(4) 絵図「東蝦夷地シャマニ之景」のレプリカ及びデジタル解説の作製 <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記製作物のデジタルガイド拡張発展</li> </ul> </li> <li>(5) 観光客向けモバイルガイドの作成(本事業) <ul style="list-style-type: none"> <li>・「様似×アイヌ文化×観光」を一つとした街歩きサイトの構築</li> </ul> </li> </ol> <p>4-4 地域内若しくは地域間の交流又は国際交流の促進に資する事業</p>

	<p>■ 台湾原住民族との交流・研修事業</p> <p>台湾原住民族の歌舞団を招へいし、お互いに歌や踊りを披露するなど交流を深めるとともに、意見交換を行うことにより、アイヌ文化の継承・発展に活かす。</p>
--	---

6 事業の成果目標等	
(1) 成果目標の達成に向けた工程	<p>(1) 文化振興事業</p> <p>① 熊崎直平氏資料の整理及び資料目録作成事業</p> <p>熊崎氏の資料の大部分は、熊崎氏がアイヌ民族・アイヌ文化について自分の研究をまとめて書籍として発刊するつもりで書いた原稿の草稿であるが、その中には、熊崎氏がアイヌと身近に接しながら得たさまざまな知見が含まれており、貴重な情報が多数含まれている。また、当地で採集されたアイヌ語の語彙、口承文芸の記録も含まれている。実際に学校に勤務した教師による資料は道内でも例が少ないものであり、アイヌの歴史のみならず北海道の歴史研究上、貴重な資料となることが見込まれる。</p> <p>(2) 地域・産業振興事業</p> <p>① アイヌ関連資料の調査研究及び普及活用事業(街歩きデジタルガイド制作)</p> <p>様似町のアイヌ文化を紹介するHPの活用により、様似町に関心をもつ人々への事前の予習行動として使用。実際に様似町に訪れた旅行者にはデジタルガイドを使用したデジタルスタンプラリーで現地を周り、町内のアイヌ文化関連施設を周遊することができる。発信拠点兼ゴール地点となる様似郷土館では本事業の普及のほか、スタンプラリー達成者への景品授与なども行う予定である。また、館内では町内のアイヌ文化や関連装飾品の展示、動画視聴が可能であり、現地で目にしたものと紐づけて、学習を促す場を提供する。様似町の旅後にはHPを活用した振り返り学習も可能である。様似×アイヌ文化×観光を促していく事業である。</p> <p>(3) コミュニティ活動支援事業</p> <p>① 台湾原住民族との交流・研修事業</p> <p>以前より交流があった台湾原住民族の諸民族の一つ、ブヌン族の歌舞団を招へいし、お互いに歌や踊りを披露するなど交流を深めるとともに、町内のアイヌ民族と関わりのある景観や施設、史跡を見学してもらい、さらにウポポイなど、北海道内のアイヌ民族施設をともに訪問し、見学してもらいながら意見交換を行うことにより、アイヌ文化の継承・発展に活かす。</p>
(2) 成果目標、(中間)目標年度(成果目標に対する現状値、及び成果目標の達成見込みについて記載すること)	<p>(1) 文化振興事業</p> <p>・町立様似図書館来館者数 (現状値) 令和2年度 4,700人/年間 (中間目標) 令和4年度 5,000人/年間 (最終目標) 令和6年度 5,200人/年間</p> <p>(2) 地域・産業振興事業</p> <p>・様似郷土館来館者数 (現状値) 令和2年度 300人/年間 (中間目標) 令和4年度 500人/年間 (最終目標) 令和6年度 700人/年間</p> <p>(3) コミュニティ活動支援事業</p> <p>・国際交流事業への参加者数(訪問者・被招聘者・受け入れ団体含む) 令和6年度 300人/年間</p>
	各事業に設定しているKPIについては実績値を公表し、毎年度、様似アイヌ協

(3)成果目標の確認方法	会に対し目標の達成状況の検証、報告を行い、意見に基づき計画期間内の事業実施等に反映する。
7 地域 の 概 要	
(1)地域におけるアイヌ文化等の現状及び課題	<p>様似町には古代より人が暮らしており、縄文時代の遺跡が各所で発見されている。それは、現在のアイヌ民族の先祖であると考えられる。古代よりアイヌ民族の先祖がこの地で生活を営み、豊かな文化をはぐくんできた。</p> <p>サマニという町名をはじめ、アポイ、エンルム、ホロマンなどの町内各地の地名の多くはアイヌ語を由来としており、親子岩やソピラ岩、冬島の穴岩など、町内沿岸地域の各所に巨大な奇岩があり、それぞれに興味深い伝説が残されている。</p> <p>様似町は北海道南部の日高地方に位置するが、その日高においてもアイヌ文化やアイヌ語に地域差が存在し、東部に位置する様似アイヌの文化や言語は独特の特徴を持っているといわれている。</p> <p>様似町は、早くには17世紀に金山が開かれ、本州からの和人が移り住んでいたとみられ、蝦夷三官寺の一つである等澗院が存在する町であるが、この町でもアイヌ民族は和人と接触しつつ、独自の歴史を営んできた。</p> <p>また、かんらん岩や高山植物で知られるアポイ岳は、世界ジオパークに登録されており、その名前はアイヌ民族の伝説に由来しており、その構成要素の中でアイヌ文化は重要な位置を占めている。</p> <p>このように様似町の歴史と風土はアイヌ民族と大きな関わりを持っている。</p> <p>そして、江戸時代の場所請負制や明治以降の開拓の歴史の中でアイヌ民族が苦難の歴史を歩んできたことは周知の事実であり、様似のアイヌ民族も例外ではなかった。</p> <p>近代の歴史の中で差別や偏見、社会的圧迫があつたにもかかわらず、様似においてもアイヌ文化はアイヌ民族の間に伝承されてきた。また、アイヌ民族による生活向上のための活動も行われてきた。</p> <p>戦後間もない昭和21年に設立された北海道アイヌ協会の支部が様似でも結成された(現在の様似アイヌ協会)。その後一時期活動が停滞したが、アイヌ民族の生活向上、復権、文化伝承のための取り組みが長年行われてきた。</p> <p>また、昭和58年には様似民族文化保存部会(その後の様似民族文化保存会)が設置され、伝統文化の伝承保存に取り組みを続け、国により重要無形民俗文化財である古式舞踊の保護団体として認定を受けている。保存会は北海道内外各地で、そして、海外でも古式舞踊を披露し、アイヌ文化の普及啓発に取り組んできた。</p> <p>様似町は日高管内でも小さい町でありながら、アイヌ民族の懸命な努力により大きな成果を生んできたということがいえる。</p> <p>なお、町としても生活館を活動拠点として設置し、担当職員の配置、アイヌ民族団体の活動に助成をするなどの支援を行ってきた。</p> <p>一方、かつて1万人以上を誇った町の人口も次第に減少し、現在は約4,200人に落ち込んでしまっているのが現状である。その中で将来のアイヌ文化の継承者となるべき人たちも生活のため町外に移り住み、少子化も相まって、民族団体の会員も高齢化が進んでおり、今後の活動の継続を危ぶむ声も出ている。</p> <p>また、全国的にアイヌ文化に対する関心が高まり、様似町においても認知が少しずつ進んでいるが、十分とはいえない。</p> <p>町としては、アイヌ民族の自主性を尊重し、その活動を引き続き支援しつつ、町全体がアイヌ民族やアイヌ文化を尊重する雰囲気を醸成していくことが必要であると考えられる。そのためのまちづくりをさらに進めることは重要であり、今回の新法の趣旨に合致することである。</p>
(2)施設等の管理運営体制	東様似生活館、様似郷土館、アポイ岳ジオパークビジターセンター、様似町中央公民館及び町立様似図書館は様似町が管理している。
(3)アイヌ関係団体及び地域住民の協力体制	様似アイヌ協会及び民族文化保存会とは定期的に意見交換を行っている。

8 収支予算

(1)収入の部

区 分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (本年度精算額)	比較増減	
			増	減
国庫補助金	16,006,000	6,072,000	9,934,000	
市町村負担額	4,002,000	1,518,000	2,484,000	
計	20,008,000	7,590,000	12,418,000	

(2)支出の部

経 費 区 分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (本年度精算額)	比較増減	
			増	減
文化振興事業	2,370,000	280,000	2,090,000	
報償費	210,000	120,000	90,000	
旅 費	140,000	140,000		
需用費	2,000,000	0	2,000,000	
委託料	0	0	0	
使用料	20,000	20,000	0	
地域・産業振興事業	10,500,000		10,500,000	
報償費				
旅 費				
需用費				
委託料	10,500,000	0	10,500,000	
コミュニティ活動支援事業	7,138,000	7,310,000		172,000
報償費	375,000	0	375,000	
旅 費	1,485,000	181,000	1,304,000	
需用費				
委託料	5,278,000	7,129,000		1,851,000